

コロナ・パンデミックとユネスコスクール

北海道ユネスコ連絡協議会

会長 大津 和子

コロナ・パンデミックが始まって3年目に突入しました。世界の感染者数は4.4億人、死者は600万人を超えました(2022年3月8日現在)。コロナ禍により、極度の貧困状態にある人の数は過去25年で初めて増加に転じ、新たに1億人増加したと言われています。コロナの影響は、社会的に弱い立場に置かれている人々(難民、身体障がい者、女性等)によりいっそう深刻で、SDGsの達成が大幅に遅れることが懸念されています。

国内の感染確認者数は544万人、死者は2.5万人を超えています(2022年3月8日現在)。北海道内でも感染者が増え、とりわけ2022年1月以降、若い世代の感染が拡大し、学級閉鎖や学年閉鎖が広がっています。学校現場では通常の校務に加えて、感染予防対策、教育委員会や保護者への諸連絡等で、先生方は多忙を極めています。学校での教育活動が制約され、児童・生徒の学びにも大きな影響が出ています。

こうしたなか、学習指導要領改訂の基本理念に基づいて、「持続可能な社会の創り手」を育成するために、教科書にはSDGsに関する記述が大幅に増え、「持続可能な開発のための教育(ESD)」のさらなる推進が求められています。3年ほど前まで、学校現場ではSDGsの認知度が低かったのですが、近年、先生方の間でもSDGsに対する関心が高まっています。

ユネスコの理念を実現するユネスコスクールでは、いち早くESDが取り組まれ、SDGsに関わる様々な活動が展開されてきました。北海道内では、「ユネスコスクール実践事例集」を通じて各学校・園の活動を共有し、活動の活性化を図ってきました。コロナ感染拡大の影響により、昨年度は実践報告書を作成することが叶いませんでしたが、今年度は何とか作成できました。

「ユネスコスクール実践事例集」には、ESDカレンダーに基づく学習(生振小学校)、SDGsをテーマとした探究学習(海星学院高校)をはじめ、地域や学校の特色を生かしながら、SDGsに関わって次のような活動事例が報告されています(学校名省略)。

SDG4 世界寺子屋運動(書き損じはがき回収)、東日本大震災子ども支援、国際交流

SDG5 ジェンダー平等学習

SDG6 カンボジアの小学校に井戸を

SDG10 アイヌ文化学習、多文化共生

SDG11 コロナ禍における地域飲食店の取り組み紹介 YouTube 動画作成、郊外清掃活動、雪かきボランティア、農業体験学習、ふるさと学習、防災学習、福祉学習、地域行事参加

SDG12 リングブル・エコキャップ回収

SDG14 浜の清掃活動、昆布学習、水産教室

SDG15 植林活動、外来植物除去活動、自然体験学習、生態系学習、クマ学習

SDG16 長崎平和学習

SDG17 JICA「世界の笑顔のために」学用品回収、シューズドネーション

大変お忙しいにもかかわらず、実践報告書を提出して下さった各学校・園の皆様に感謝申し上げます。コロナ禍のために様々な制約がありながら、創意工夫をしながらESD活動に取り組んでおられるユネスコスクールに敬意を表します。

一日も早くコロナが収束して学校生活が正常に戻り、私たち誰もが安心して安全に暮らせる日が来ることを、心から願っています。